

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370872

研究課題名(和文) 近世フランスにおける権力の再編と宗教ーパリとカトリック改革

研究課題名(英文) The Reorganization of powers and Religion in Early Modern France -- Paris and Catholic Reformation

研究代表者

高澤 紀恵 (TAKAZAWA, Norie)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：80187947

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：パリの北東に位置するサン・ポール教区の一司祭、ニコラ・マジュールの在任期間(1633-1664)に焦点をあて、この教区で展開したマイクロポリティクスの解明に取り組んだ。その結果、この教区がカトリック改革がうんだ新しい宗教実践と多様な思惑が交錯する紛争の場(アリーナ)となっていく具体的様相を明らかにした。とりわけ、司祭マジュールが聖体会の指導的リーダーから戦闘的なジャンセニストに転じる軌跡をはじめて追い、17世紀中葉の政治と宗教の複雑な連関を都市社会史の文脈で理解する道筋を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This research analyzes the micro-politics in the Saint Paul Parish of Paris, focusing on the period from 1633 to 1664 when the priest named Nicolas Mazure had served there. Under the enthusiasm of Catholic Reformation, this parish became the arena. New religious practices and plural beliefs crossed and came in conflicts there. Especially in following the tracks of Mazure, from a leading member of the company of Saint Sacrament to the militant Jansenist, we gave new lights on the complicated connection between politics and religion in the context of an urban society of Paris in the middle of 17th century.

研究分野：人文学

キーワード：近世 フランス カトリック改革 パリ イエズス会 ジャンセニズム 教区 篤信派

1. 研究開始当初の背景

本研究は、以下の3つの背景の交点で発想された。

1) 2006年以來日仏の近世史研究者との研究交流の展開のなかで、都市史研究の次なる課題が明確になった。ひとつは、権力論を射程に入れた精緻な都市研究を進める必要性である。ふたつに、都市を閉じた空間としてではなく、重層的に、またダイナミックに展開する広域的政治社会の中で分析する必要性である。

2) 戦後歴史学以降の史学史が再検討されるなかで、ヨーロッパ近世史像の再構築を本格的に始めようという国内の研究状況がある。その中で、大きな影響力を持ってきた社团的編成論を対象化し、近世社会・国家像を再構築しようという動きが始まっている。このためには、単に方法論の議論にとどまらず、宗教史を社会史、国制史の成果と接合する本課題の解明が重要な貢献になりうると考えるに至った。

3) 都市史、国制史、社会史と融合した宗教史の新展開という国際的動向がある。

2. 研究の目的

1) 17世紀中葉のパリ、サン・ポール教区というマイクロなフィールドで、カトリック内部の複雑な対抗関係を解明し、パリに生きた人々の視点からカトリック改革を再考する。

2) 上記の事例研究を通してカトリック改革と絶対王政形成期の権力再編プロセスの関連を問い、長く近世社会・国家の分析枠組であった社团的編成論を超える視点を獲得する。

3) 国内外の近世史研究者との討議を通して、新たなヨーロッパ社会・国家像を構築する。

3. 研究の方法

1) カトリック改革の中心のひとつ、サン・ポール教区に焦点を当てる。とりわけ教区司祭ニコラ・マジュールが教区内の修道会

(ミニモ会・イエズス会)と多くの係争があったことをフランス国立図書館における予備的史料調査で確認しているため、国立図書館・国立古文書館の史料から、教区司祭の裁判関連文書を分析する。

2) 17世紀中葉の篤信派ネットワークの結節点にあった秘密組織、聖体会主要メンバーのガストン・ランティはサン・ポール教区に居住し、同時に彼らが保護した職人集団(善人アンリと靴直し兄弟会)がこの教区に居を定めていたことが予備調査で明らかであった。彼らの動向を、教区をこえ、ヨーロッパ広域に、さらに世界に広がる篤信派ネットワークのなかで分析する。その上で、広域ネットワークと上記1で明らかになる教区のマイクロポリティクスとの関連を読み解く。

4. 研究成果

1) 17世紀中葉サン・ポール教区のマイクロポリティクスの主要アクターの析出:カトリック改革期の教区内の抗争の分析から主要なアクターたちを析出した。その結果、この狭い教区には「聖人たちの世紀」といわれる時期の宗教・社会動向に深く関わる以下の人々、組織が存在していたことが判明した。イエズス会、ミニモ会、聖体会の有力者にしてノルマンディ貴族のガストン・ランティ、ランティの庇護下にあった善人アンリと靴直し兄弟会、そして叔父から司祭職をひきつぐ教区司祭ニコラ・マジュールである。マジュールのもとで教区会においてもマジュール派、反マジュール派の抗争が見られたことを教区記録から見出し、紛争の場(アリーナ)としての教区の具体相を明らかにできた。

2) 教区司祭の軌跡:1633年から31年間にわたってサン・ポール教区の主任司祭であったニコラ・マジュールのユニークな軌跡を明らかにした。若きソルボンヌの神学博士として叔父の後を襲って教区司祭となった

彼は、1635年に篤信派の秘密組織である聖体会の史料に姿を現す。1641年にこの教区に居を移したランティとともに靴直し兄弟会の規約起草にも関わっており、1644年、45年には聖体会の指導者の役割も務めている。以上から彼のキャリアの前半には、篤信派であったことが明らかとなった。この時期にはミニモ会と対立していることも、訴訟覚え書きから判明した。マジュールはこの前後からジャンセニズムに傾倒し、1653年に出版した書籍はイエズス会との論争に発展する。教区は、ジャンセニストとイエズス会との深刻な対立の最前線となる。以上の彼の軌跡があきらかにするのは、以下の三点である。第一に、これまでの聖体会研究においては、ジャンセニストとの関係は不明であったが、その主要メンバーの中にもジャンセニズムが広がったことである。第二に、ジャンセニズムに傾倒後には、靴直し兄弟会との関係が悪化しており、兄弟会は1655年にはサン・ポール教区を去っている。聖体会は、兄弟会への支持を変えていないことから、宗教実践上、聖体会の目指した方向とジャンセニストとの距離が広がっていくことが、ひとりの聖職者の軌跡から確認することができた。第三は、マジュールとミニモ会、イエズス会が、なにを争点として対立したかを具体的に示したことである。

3) 善人アンリとコルドリエ兄弟会の軌跡：ランティら聖体会の庇護下にあったコルドリエ兄弟会の軌跡がはじめて明らかになった。アンリはじめ7名の職人は、すべてパリ以外の出身であり、ギルドに属することなく共住協働集団を構成した。聖体会の研究（高澤、2008）によって、聖体会はパリの職人組合を異端的であると攻撃していたことがすでにわかっていたが、アンリらは聖体会が理想とする「対抗モデル」として庇護されていたと考えられる。聖体会が大きく関与し

た一般施療院での職業指導に従事していたのも、彼ら兄弟会であった。また、サン・ポール教区を去った彼らの居住先を確認することもできた。以上のようなコルドリエ兄弟会の軌跡は、これまで主としてエリートの運動として理解されてきたカトリック改革が、民衆層とどのように関わったのかを考察する貴重な糸口であり、今後一層の解明に努めたい。

4) 17世紀中葉におけるジャンセニズムの展開：これまで民衆層とジャンセニズムの関係については、18世紀においてはデヴィッド・ガリオックらの優れた研究によって明らかにされてきた。他方、17世紀にジャンセニズムがフランスに広まった段階では、高等法院官僚などのエリートの運動として理解されてきた。しかし、マジュールが司祭を務めた時期のサン・ポール教区会の動向は、ここにはマジュール派、反マジュール派の一般信徒を巻き込んだ緊張と対抗があることを示しており、ジャンセニズムが教区に広がっていたことを示唆している。今後、ジャンセニズム研究の分厚い蓄積と本研究を接合させることによって、17世紀から18世紀にかけてパリの都市民へのジャンセニズムの影響がより一層明らかになるとと思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 5 件)

高澤紀恵「歴史研究の可能性を求めて」『歴史学研究』937号、203-211頁。(査読無)、2015年。

高澤紀恵「自由をめぐる葛藤」歴史学研究会編『世界史20 講史料から考える』岩波書店、57-65頁、(査読無)、2014年。

高澤紀恵「過去は誰のものか」『思想』

1084号、2-8頁。(査読無) 2014年。

高澤紀恵「歴史学が存続するために」『歴史学研究』922号、24-28頁。(査読無) 2014年。

高澤紀恵「近世パリの貧困と救済」塚田孝、佐賀朝、八木滋編『近世身分社会の比較史』清文堂出版、(査読無) 2014年。

〔学会発表〕(計 2 件)

Norié Takazawa, “Conflicts au sein des paroisses au temps de la réforme catholique—exemple de la paroisse Saint-Paul (Paris)”, Journées d'étude franco-japonaises Gestion des conflits, résolution des conflits, Lille, 13, mars 2015. (招待講演)

Norié Takazawa, “The Sacred artisans and St. Paul Parish”, Journées d'études Espaces, Statuts et Institutions: Perspectives Franco-Japonaises en Histoire Urbaine, Université Paris IV (Sorbonne), 23 novembre 2013. (招待講演)

〔図書〕(計 2 件)

高澤紀恵・竹下和亮「近世ヨーロッパの政治空間」高澤紀恵・竹下和亮(編)フランスワ=ジョセフ・ルッジウ『都市・身分・新世界』山川出版社、5-24ページ、2016。

南塚信吾・高澤紀恵・秋田稔編『新しく学ぶ西洋史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、450ページ、2016。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高澤 紀恵 (TAKAZAWA, Norie)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：80187947

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

Robert Descimon, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, フランス

Fanny Cosandey, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales, フランス